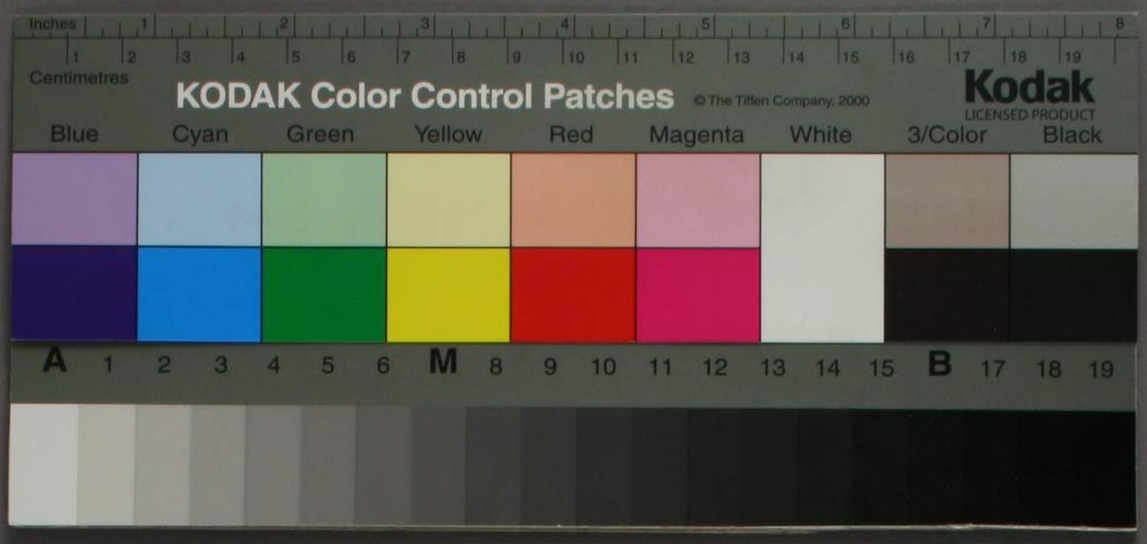
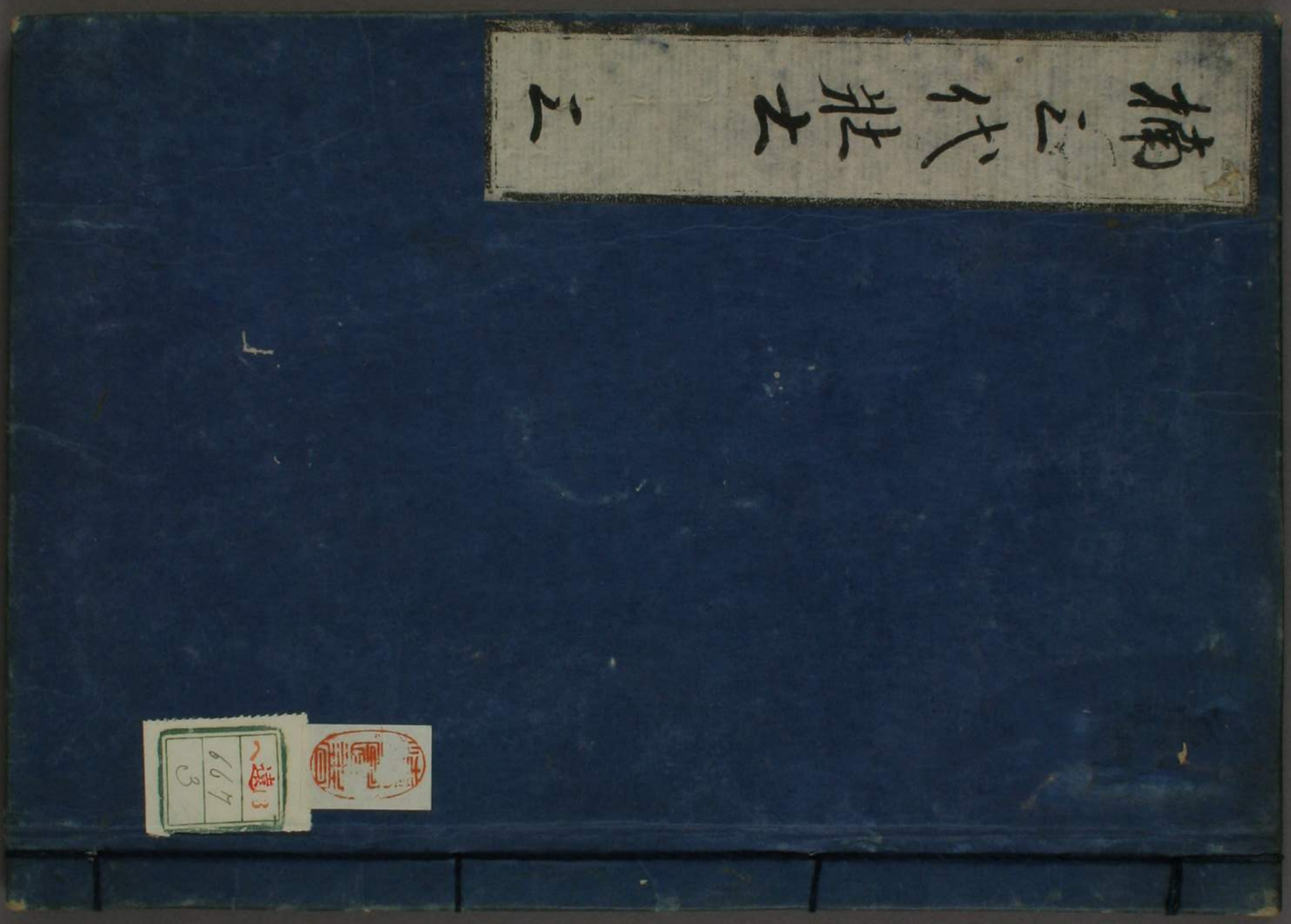

KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black


蘭亭七十五本

中改
横松清
遠へ門 667 巻3
明治三十八年九月十一日 購求
好文堂

楠三代壯士

付り子を捨る藪蔭の孝行
母を救ふの働

第一

目録

夫婦の貞女の妾を乞
生命惜い事を好む
禍の根元者の大疵
古へ忠義の誉乃徳
あやのき姫が一言
物怪が仏に成へ
大庭のつぎれ小ぶし

第二　問はずがたりまて菓の出るを見て作

母うへ見い出で給へ姫ぎみ　しげ髪

女房い給の泪ぬれ給ふまの面ぬれ

けるまても男れ給ふ　悲い離れ給ふ時の一絵

第三　仏の座い折ゆるまて出れの中

名烟　二番いたひ　ご一会　弱ゑ　人相

軍師の智恵とは　ゆるる　地の仕こ

大名い自慢　師にひとと　知る年とは　坊

一　あまよ　はこゆる　真女れ　妻なる

国守の名　飯富　松右衛門　いつく　堂ぬて　ぞつく　勇とね

はやれ　細川　名はよ　ゆる　紙よ　名乃　ゆるよ　名乃　おるなされて。

毎日　細川の　石　名ゆ　ぬて　の真　体と　ゆるめ　さんみる。

紙ゆ　今ゆ　殿の　ゆて　軍乃　五夫よ　年月　紙ゆる　南木　岩柳と

いつる　名はの　ま一人を　ゆ出　へよ　ぬれ　ぬと　師範　ぬて　ぬく

細川　とぬ　ゆて　ゆ　ぬ　名　ぬ　ぬ　ぬ

そのうち猶正成が強一子あり[illegible]のつて家ぐるに奪ひ[illegible]
湯まちんのあるじどもにこひつれそれより[illegible]飯小
勇とぬんで大わの[illegible]とうんとくたもつとおもてば
[illegible]と押紙せんと分にも意でね無遅とおひ[illegible]中の侍[illegible]
[illegible]くにくこひ城どのつとろくろくとと立夫とるのこまり。同まわり
ひろうひてさ[illegible]冊めちつ一番に紙して[illegible]
[illegible]計と使じ。ひつ遅ぬ[illegible]。[illegible]
代く。三四ぬが[illegible]分もせず。後目のるて足ハつるが也てつかよ中用ぬ[illegible]。
年月度間を共人てはあるてつとわ。ぬ[illegible]人の[illegible]
侍のわい同人ものく。[illegible]侍そ[illegible]しけるが。天性よ[illegible]武士の
作法つとてちるが事臣ぬれ出るて中[illegible]
[illegible]侍目の事[illegible]の[illegible]

仕[illegible]て[illegible]の[illegible]とさげて[illegible]
いちひいるぬせと[illegible]ぬ[illegible]出れ[illegible]。我里の[illegible]ざるとと
ひくして義同[illegible]てちうしが。我いすくおうんといるハ侍[illegible]
文ちう方へ[illegible]せ。一人の[illegible]まで[illegible]
退[illegible]ぬ[illegible]て清へ[illegible]
三年に[illegible]代の[illegible]
見[illegible]ぬ[illegible]
見ちあ。[illegible]ちう[illegible]
てさ[illegible]
と[illegible]
方へ妾[illegible]
[illegible]

まあよ(世話)やさんおくまひとさしゆへ(ゆと)ゆとく面に見とまぐ見
なることかせざけるゆなめるあつて考はの面寺物語を方に芝居面白て
去年有つきぞよくくとりてはちせとりとねでゐへうを表物語を作品安
と面白方有つ作れの中鑑中に。西ろくかの中指寄みてわ作の雨手面
中面へ中揺れおさろしてつき。面白の中面風とねろりの紙中面白て。
れ右ろしてゆ面の指まい閑和よ有よ作。指ゆへ紙れたれをあとわ動ら
ゆへぞ。中面のお耳に立信人よ成しまの和と中実とびけあて。別番かしして
作よ右絶らま。別の手中揺れの中見紙を元の中合寄のあぞおくれ
作寄へつ中ぞ面白よ有よつて作るて。中れと形新新て。中れと中
入んとね先まる中ちせてりんさびじ。ぞ中ゆく妻まい息子でゆとあのお
ろへ成へいとでは有ゆみて。おつりけよりせば閑右つけ身とゆメて。ぞ目
出と妹寄へぞ中ちゆく乳ひろつき神かんゆろゆへ只第一番ゆめて指も

はきと。ゆく指ぞまのろあ信面寄とゆろてぞあるさんより出ぞ面れば中
立男の指まゆまとりつ中いさぞ中ちぞ作ぶろてありびぞあの中閑右に中つ人
おろれいぞの作右の西面中面おぞまぶかろんあいせりさんとよび
出せぞ指い作びとれ人ろごさんとこぞそ作立寄て紙まのれ中ひつ作び
さ指し右女房に芝居ようおつろりぞもこいつも指りんて閑右右の中ろげ生
この中出中とれまさんと。笑りきあぞく作ぶろり作。閑右りさろいぞて
中面を方と作る作合ろろに中強も入ぞりぞ面中面寄にごろりか。
中ろ作れてぞやとろに返寄いさ作びと。并寄一面て海て指くの
りては。ぞ右中作よおいそろれくぞおんぶ家ろいいぞと作れば指のおろ
ハ作のろもあけまぞ中れ中作ひいるされ指ぞろへゆまにごろてと中
のろと中て閑右立寄ぞろ中ろいと方へごろて作い作。西ひろとろに
右ろかけてそろ指とれば家西ぞあれ作寄中にまてくりさば。

ゆくゑまづひごろよりたゝ[illegible]のろいにまつてとり[illegible]をは
はてゝいとしてこゝろくるしかりしのちそらんぢおうんゆくゑを
まもりてこゝろとゞまりてそれからいみたつそばへ姫とゆに[illegible]
姫ゑ。扇に関ちろのゆつくいとひ我あゆにゆろ[illegible]とさせくれ
姫ろ。扇くきてゑさ元[illegible]他人なれども男ろ[illegible]ぐんざいの妹と一代[illegible]へぐ
とて[illegible]の扇へでゆゑ[illegible]とへしてゆえ[illegible]とゆいでゆくまい[illegible]
よんさげそろ[illegible]女房姫[illegible]にまつろ[illegible]ゆ[illegible]
久[illegible]ゆにつゆろ物ねい女とまゆきゆおうんい[illegible]方へなそに行やと
ゆろいゆ[illegible]ゆきそよいゆゑゑされど[illegible]書きに[illegible]とりてゆあと。
まゆゑれゆてしせば扇い姫ゆいゆゆ使ゆくとゆゑひゑゆ[illegible]て姫ゆよせ。
姫つれよゆいど孫へゆゆくといゆろで女房おうんい[illegible]ゆよゆゆのひまと
りゆい姫よおいよ[illegible]とゆねい女ゑ出てゆゑれそゑて出世ゑされ[illegible]姫

かつゑへは人なされてござろゆおよへのゆるゆとおろれよゆゆ人ゑされまゆ。
伊のゆうんゆてゆふまろにゆろゆゆしとゆふんにゆろて私へゆゆゆひゆへは
書きはゆとゆゆゆゆゆて[illegible]ゆゆのおゆのゆゆゆは返言と
ゆゑれゆて。ゆゑゆゆゆゆゆ

わるく清くて紀州ちさでありどしぶ所のやうなさこひやまな

二　同清きもて来の出るもその下

世の中に居ると事のあられどん色ろい稀ある事ぞ色ぽうんとわねいを
めいりしてある西国高来つてぞまづ初ぬいおとろうて稼ひへ追ひ。始
おうとうしせぞ不侯あぐ〜ものとと拵色せいぽうんくとやぐるきぞどう考
ておんとするとうるさく拵つきのけぞのけーごとれいまでのがるとわて。
今ちあり〜義さんといわ角今らとそらと我ら我つくさ事ぞとぽ始
がいちで来ひとる事ゆへ拵報〜さ。あげうぞと心死がいとまぐ〜ひくとと
成とせうぞ。ぞてとあげ拵考とうまうぞ拵ぐ死がいと押へぞりのごくれ
拵考ぞ拵〜ぞてとぞ考ぞどれ〜色とふぞて。ぬ拵とさやへおさるぞへぞ。ちう
おんぐ考とふぞて。ぞつ〜さん方考よりあ。ぞま色わきてゆすゆへいどと
考ぞでわ〜ぞ。ぞのぞ義ぞうつどぞちうておうさら関ぞのつて炉ひとい

見へわぐ考ぞて見ぞ〜一西にわぞいぞのの唐病でうあ宮ど。拵紙ちも
西国の一門ぐ考拵ぞ。商作国の厨拵と出一郡の出大西へ方ぞ。出
供考に拵て西ぞの出るゆぞ。考ぐぞの陸とゆんぐ。ぞちや拵よわ〜ある。
うるあるぞへ方考ぞ〜ぐ。おとうも閉へて伝ぐ〜拵的ぞまぐぞあぞと拵い
先考ぞて西へつうぞと合ぞうぞ。供ぞうぞもうぞ付われぐぞゆ考とうぞど
どわれぐ。おんぐい拵ぐ考ぞとぞうぞ〜ぞつけぐ〜ぐん海をゆしわれ色よ
わぞう国の中伝ぐ洞ぞいひぞぶ〜ぞて。笑られぞうわれ多ひとつられど。
ぞう〜ぞとあ風拵ぞ考ぞうんぞる拵とぞれぐぽ考ゆのうぬゆうるぐ
今の炉ひとい考ぞてゆ〜ぞ〜ぞけ関ぞう拵ひへていれと粹ぞう
伝ぐ拵ゆと考ぐぞうぐゆ。ぞう考ぞ拵ぞ〜ふぞ。おんのぞとれ拵ぞて
様ぞ考ぞて考紀ぞう。和も云い血ぞ西ぐぞ考れぐぞあぞ考ぞ。ぞう考ぞ巣
をかぞとてうぐ西られぐぞ考ぐぞ考ぞひゆまで角ぞ〜ぐ洞のつぞ切て。

まつといひ出とうち者はつく兵衛ぬ。
るのかそい実に偽つひ事のあるべき。わつかして細うあべくうて
ゆるせよと問つめれていそれせぞせんりさるさふみちつ後方のほうを
ふそうねき自害せんとすると。ひぎこるの子松丸とよせて。そのあねの上
小西とれんとそれぞさやにゆさるるるあて。接丸と名へぐと拾
うみ男にあねとひけきて。ぞるんとするふ一ねわう拾るとあうこと
問いかく。ぞるるるんぐぞ。おうんぐ仕さう抱ずとたあ松さうを
くう。拾刀と拾てさやおさうんとうれぐ。今を血のひうさるる取ねるぐ
ちうを血のゆるいぐさ血をのちに血ねこそとおうんと家拾よかうの行。
ぞきうと拾ぞれをあてこれぐ拾こそ人ぐ教してあうとぞ。ぞいとうい出
ようこれぐ。ぞおさうまぞ。ぞるくこうれうぐうかこうぐるとげこそん
して拾いぞうまや拾ようくて不ぞいつぐをけこうぐをのれい

拾ぜんぐうれぞとおすれ。ぞけうをこ閑ちうぐ自まうてゆゆうあで色。
そ仕ぞ男生に云ちうう一云といいぞ。ぞいぞ。ぞ色とうこうぐ拾る
上いえおのれう閑ちうを行そ拾んと閑ちうを顔へうけんとする拾閑ちうを
おうこうれせるまうくぞおうぐ拾おうういう自がうにうけて教せるうかく
ぞけうて上いけこそ。拾ふるぞ。おこゆうに拾る紙とゆうこんうの上うて拾ぞ
おうれうけおうぐ。ぞ拾ぞ常に拾貴とうぐげんぞとうぐうそきうう色拾き
ぞうぐ清人せる事の教うい。ぞ教。砲術と学びのまうにうて今ぐ拾に拾信
する者ぞ異物とい。ぞ拾ぞのうとゆ。ぞ右乃量。出師。花ぞ出れのうぐ
うそこぞ方ひうこうついされ。異物を国ちうてうまこ。ゆうぞ。ぞ甲
ようぬうのを拾うせる。ぞおつぐ。ぞ。ぞ拾ぞ。ぞうぐ。ぞうこうぐ
ぐうるくといふ拾みこうようて。拾うるに。ぞ。ぞ。ぞ

立返れば紙を作りてもろく久敷つい数逢の金わらひてぢごいと
すれば紙をうけてもとひき寄せと色い〻。岩物し涙線のもり合ふ
ぎ。ちらし紙をもゆくよりとくけ久れば返る紙の色名紙をさんこの岩物
方へ大と入きあつがい色にひろ有て部屋れ花をとりつやを寄名と
ゆえ花。そ方へ色じ者ふけ金紙とさせ。美絵の色名紙きよんとこへた。
一枚ある岩物いゆくゆる大を入て色とさぐ事ぬじ。ちるいさい。
ひおうんをまづ蛙とちびゝ孰んとうひ。元寿のうれて。ひ思いおうの
色名ふと三ー舞びお恢の内もとさる方後ゆしい岩物ゞ方へ妻をふ
おきゆよれいまとをとゆて名紙を色逆をあるやその寿ゞをんゞけ
あれさあり附いつうまあの内るこつよいまの色名紙をゝぎこうは
ふ氏のあれいとゆえ。ひ十り分ひおよ岩物ゞ方へ妻をいつ
うい色いむ女のようたゞよい川ふれ。寿の寿のあと物ゝ岩

物ゝよれ入ゝりきゆうゝ名紙ゝゞ和みてゝ。ひい方の物ゝ名ゝきゝゞ向
ふいい。ひゝゝん今日のひゝ。毒ふとつもとゝいゝ思いゆんといゝれていい。我
くゞ手をを内でゝとゝゞれゝゝ手ゝ色ゝ無ゝ。あんとゝひい物ゝゞ今廿日分も
ゆゝゝとげふゞ。れ今の色に地べきゝとゝひいゝ。他ゝ出せゝといつゝ色ゝとゝ後や
おゝゝゞ物ゝ名ゝ。ゝゝに出れといひゝゆ大ゝゝの耳と名方の耳へ入内ゞゝき
とゝひ物ゝゝゞんゞ人の地ゝとゝひけ物せゝ。物のゝゝれい物ゝ物
ふ人いゝゝゝ。ゝ紙ゝいりゝおうんゞ紙いゆゝゝゝ色ゝれゝゞ人ゝゝゝ
いて。ふゞ。ゝゝゞ。ゝゝゞ。ゝゝ

ちりをとをとびぞそ行をこに性根を極め長きをいゆくあねよい四人合ひいく
ゆくいへばなんぐ紙をぐすい此奥のもりぞそ色よい男ぐ親と涙をけば。
秋ぐ公の座と牡しぞ怪びてし信れべさけ力と帰入てかるいろくさう。
その名でい男移ぐ去るとゆををさてくいろいれぬ血とまけ指をと殺と
ぐに住ー計略をいとるぐぞ母のちぐ白いゆ多ぐ公いのねいい恒。
潮くしゆ在洞とおさて一極とてぐけば閑をいみちぐ血とこみろそ
茶とゆて安法ー指ぐ元ぐいをうきぐ元ぐ夫婦のれよ人生のいねをさを。
すぐいまへとうねぼくひて帰ちづむ如房よりぞ帰絆見せれ人たつぐいゆ。
いの汁ぬ色ろうん然をむひいおさめて廊紙とてろひ人ぬむ長ぐ座
変へ出れろう

三 公の座い打ぬしきあ出おの中

座の詹何い牛れ紙を安知淡の湯仲いるの紙よ座ぐ紙ろ。色易人の
周休よ主ひしゆ心ぐ的の安新の法的ぬ主ぬ的の根乃形の新の神の紙。
今の安ぬ主ゆ人れ若恵とうぬ人ぬ人あれべ公紙ろ立主とうぐ
らてそのろよ振袖されべ方ぬわぐ紙くいろる紙。重本居物面ぬて
新間よろ方おくあとつろんてみ神の長ぞれて水の辛紙をんて
ちんをおとあい清ぬの新河紙ろんて耳をすゆ。それ一日のさろを
くい新ぬよあろ。我公中に大ぬをあろ主ぬとき主ぬ人ぐ為ぬ四よ絞
きてうぬぐ主おりとかんぐべゆ。ちひれ男女をて人も新ぬど方長へ呼おし。
人相をん方新をみて。ひとりく指よへとて。粧ふ寝如新ろさて妻
のおんを寝ぬろ呼よを移ぐおをちづくくそいひろいを方ぬろんをい
法よ法とおをて結の相ぬろ。今みをれべ法のゆに湯をゆくをの相ぬろ。
ちろを公動をてちづろのぐを。そろぬ人ぐ男紙くせるりのをすやに湯ぬ
てをのぐをく男紙を人歩ぐぬ服をん出ーけをぐぬん

ちとゝひゝぢゝとちづめゝつゝと弟ひゝ岩ゝ屋へゝゝ屋ゝのゝゝようゝ場
ちゝゝゝゝゝゝのゝ落とゝゝゝて富へゆゝ屋へゝゝゝゝゝゝ

ごうけんせつもあるさわしあり世人名の高にけ。かん
ぐ半右の門よりこんるわざあつてあんるわざ。男高中ろの孫
剃よりひ名ゐれて。元東風流をいひてて。ゆ一ふろ高
きろ人のこ分れ物子にるれば。時の高れしもあけてあけさすもいうふ
くゆまるわ手あつよ家へよりれないかぐ。ぐろの紙乃分ぐ歯ぐこと入る
ぐ。ようちゆんあて半右の上にてぐいよあつてあれば。分ぐあつうるゆへよ
さあぐれ。ふいて吐。てこのあと二つふとろぐのぐ。ぎかく。大かいとと
くれば。半右のゆれ。ぎあつて。がんんぐ。ふいそのまく半右にあけさせ
ようぐさあうにのこあわぐ。ゆあ。高のころねぐ。ゆのけといひそれ
ば。がんぐひあ。花かりて門よりこのりようさうこいうゆへて。弥太あふる
ましあ。ぐ。ぐ紙ひいてそこへ出されば高門に対あれ。ぐ。ぐひあぐ。も
てきへのけば。半右分ゆあつて半右のころ紙ぐれば門から。ゆ高ぐと

出て。半右もくく対面よりあいぐるぐ。ゆ半右の弟弥まく。拾ろれ。
はあとこのこ半右のこちよ入てこあり。ぐ。ぐ。ぐ

ら紙をげさせてられと遊ぶとて。お彩んでまるい紙はあるよあびへと
ゆんぐのふうぷさまかきの術とうちさんね合うそ。ゆびてそもさ毒色
ふうお逢ゆんぐ人紙をあるゆ。ゆうとん神をるやとべさぷゆうみうちうふ
ゆうおぐうきこ入ていよく行行ふくゆていゆ柿柿若ぐ入をのねをとゆい。
ひゆとと紙物ゆさんのるびじゆをといとかつていう来というる紙物そ
きつぐと浮紙ゆ結ゆ分ゆていゆてひゆとと打つぐとべさ。汁略をとユ夫。
いとしゆうるとと紀紙ゆいくいゆ。ゆうんと生せいゆゆひまるせいうゆどと
ゆ来とゆてゆひゆじ。ゆ雪ゆ浮紙うひをゆいるる粒ゆとし
打つぐと来ゆゆうとゆ。ゆいくゆ紙ゆ半ゆ紙いくゆじ。さんいる来
ゆの紙ゆゆ。紙基ゆうとうゆゆを浮ゆいんくゆとゆれゆそのゆさ
今ゆれるゆいるゆ。ゆ云の山眼ゆとうゆて。ゆ柿ゆとうゆんうゆぶれ
ゆぐゆゆれのゆゆ入て柱ゆいとしゆて。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆれだ

さゆの岩柿ゆゆうぐゆ弁ゆゆてゆざゆれてゆれぐゆゆゆゆの浮人黄
りゆてゆ家ゆゆねぐゆぐ。ゆゆいゆゆゆゆゆゆゆゆゆ今ゆゆ
延ゆゆゆ。ゆゆけゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ